

Title	泌尿器科治療：キーワードは低侵襲
Author(s)	中川, 健
Journal	歯科学報, 117(3): 250-250
URL	http://hdl.handle.net/10130/4293
Right	
Description	

特別講演 2

泌尿器科治療：キーワードは低侵襲

東京歯科大学市川総合病院泌尿器科教授 中川 健

泌尿器科というとあまり馴染みがなく何だろうという諸兄も多いかもしれない。基本的には尿路・男性生殖器系の外科である。がんもあれば腎移植もやる。尿路結石はもちろん副腎などという内分泌臓器や男性不妊という専門領域も含む。今回は、これらを横断的に網羅する Endourology という領域を中心に低侵襲治療に焦点をあて、私自身が行ってきたことから成功に至った基本概念、ロジックまでをまとめてみたい。ライフワークとして行ってきたもう一つの専門である腎移植とは少し違った思いがあり、自分自身でおもしろいなと考えている。

泌尿器科では経尿道的な内視鏡治療やドイツで潜水艦攻撃機器から開発された体外衝撃波結石破碎術 (ESWL) など低侵襲治療に古くから馴染み深い。これらの対象良性疾患の治療では、医師側は多少侵襲的でも根治治療を選択したいと考えるが、患者側はなるべく痛くなく簡便な治療を求める。もちろん病態による適応は存在するだろうが、患者目線の選択に、根治性と機能温存、そして安全性が加味されれば絶対的な選択肢となる。これが数多い疾患であれば一大ヒット治療という結果になる。痛くない手術としての腹腔鏡手術は泌尿器科領域では本格的な手術は副腎腫瘍から始まり、結果として出血量減少など副作用、合併症が軽減され、標準手術となった。そして、技術習得が進み、癌に対する難易度の高い膀胱全摘除術や前立腺全摘除術にまで拡大した。ここでの重要点は早期退院と社会復帰にあり、ここでの優位性を示すことが各医療機関の売りとなる。さらに腹腔鏡手術自体の進化としては、単孔式手術や Reduced Port Surgery といったものが出てきている。また、前立腺癌だけをピックアップすれば、治療のバリエーションから競争激化も著しいが、ここで組み立てる患者目線でのロジックが次なる低侵襲ヒット治療となっていくと思われる。さらに講演では前立腺肥大症手術や小径腎癌手術についても開発のロジックを解説したい。

低侵襲治療は患者側が求める簡便な治療だけであってはならず、医療側は根治を追求すべきであり、低侵襲治療が危険な治療であってはならない。しかし、それでも最も大切なのはユーザーとも言える患者目線に違いない。

《プロフィール》



＜略歴＞

昭和63年3月 慶應義塾大学医学部卒業
 昭和63年5月 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室入局
 平成6年11月 埼玉医科大学腎臓病センター助手
 平成8年9月 英国オックスフォード大学 Nuffield Department of Surgery Research & Clinical Fellow (移植外科)
 平成9年2月 博士(医学)(慶應義塾大学)
 平成11年2月 医療法人財団荻窪病院泌尿器科医長
 平成12年9月 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室助手
 平成14年4月 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室専任

講師

平成21年4月 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室准教授
 慶應義塾大学血液浄化・透析センター副センター長兼任
 平成26年4月 東京歯科大学市川総合病院泌尿器科教授
 平成28年6月 東京歯科大学市川総合病院副院長兼任
 現在に至る

＜所属学会＞

日本泌尿器科学会(代議員)
 日本泌尿器内視鏡学会(理事)
 日本内視鏡外科学会会員
 日本移植学会(理事)
 日本臨床腎移植学会(評議員)
 腎移植・血管外科研究会(世話人)
 日本透析医学会会員
 日本内分泌外科学会(評議員)
 日本癌治療学会会員
 European Society for Organ Transplantation